

## 2010年4月16日 タロットレメディ・セミナー後記

### 冒頭に

参加者の皆様には、お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。一ヶ月に一回しかお会いできませんので、その間に少しセミナーの内容の予習・復習等に、また日常的な考察にもお役立ていただければと、できるだけ後記を作成し、送付する運びとなりました。

まずセミナーの主旨について、参加者一同にご理解いただけたようで、主催者としては開設冥利に尽きました。お話の通り、本セミナーの案内書には「鑑定力を上げる」ための講座ですが、職業タロット占い師を対象にしたものではありません。そもそも「鑑定力」とは、タロット鑑定をする力であり、これはまず自分自身に生かして然りの力です。仕事として相談者を導くその前に、**自分自身や身近にいる家族、周辺の人々といっしょになって幸せになる力をつけていこう**という主催者の意向により、本セミナーは構成されています。

タロット鑑定とは、つまりタロット占術によるものですが、そもそも「占術」とは何のためにあるものなのかを再考しました。タロットという卜術(ぼくじゅつ)を使いつつも、命術で導き出せる個々のパーソナリティや人生傾向からはずれてしまっただけは、単なる身の上相談の域を出ません。(単なる身の上相談ができること自体、重要な要素ではありますが)

### 本編について

今回はデモンストレーション的に、主催者が抱える家族問題についてのタロット展開を取り上げました。アルカナ「愚者」を通じて、相談者の問題が、「問題視している人」にあるのではなく、相談者自身の性格傾向やものの考え方にあるケースを、皆さんと考えました。これはご相談としては非常に多いケースでもあります。相談者にアドバイスとして導き出せることを、「～してみましよう」と促しても、相談者にそうする心の準備が整っていなければ、受け入れてはもらえません。アドバイスは、札によって紋切り型になるのではなく、あくまでも相談者の受け皿に合った内容にする必要があります。「もっと自分の気持ちを解放して」「自分の人生を楽しんで」というアルカナのメッセージを、当面の問題だけにフォーカスしている相談者に理解していただくには、**もう一步踏み込んで、それができるようになるために、相談者が今何をできるのかを、いっしょになって考えていくことの重要性に、主催者は気づかされました。**一回の鑑定だけでは難しいこともあるでしょう。根気よく時間をかけることも必要になってきます。

相談者の生き方 = 過去や性格その物に対する指摘も出てきがちですが、それが命術で導

この「コミュニケーション」については、次回、皆と再考していきたいと思います。

アルカナ「魔術師」を通じて、アドバイスとしての解釈が、周囲に出ているその他複数の札を置き去りにしたものにならないように、というテーマで実例を上げてみました。アドバイスをするには、導き手のほうがより現実社会を知っている必要が出てきます。その人なりの状態、環境、立場次第で「魔術師」のアドバイスも変化します。会話、技術など人間のスキルやアカデミーを象徴する札ですから、導き手も相談者の感情に素って寄り添うだけでなく、いつ、どこで、何を、どうしよう、それは何故なのか、など数値や根拠をまじえた具体的な促しが求められるでしょう。

セミナーにおいては、各自の解釈を、必ず一点は「なるほど」と感じるところを見つけ出しながら拝聴するという姿勢にも触れました。何か一点でも自分にはない考え方として取り入れさせてもらおうと、その相手の思考に一步踏み込んだ気持ちで耳を傾けること、何であれ伝えてもらった情報について、感謝の気持ちを持って拝聴すること、これがどんなシチュエーションにおいても効力を発揮する究極の調和術ではと主催者は考えています。

やはり私たちが最も学ぶ必要があることは「人間について」ですね。本セミナーの場で、主催者自身も引き続き人として学び成長させていただきたいと、今後も内容の検討を重ねる心づもりをして、幕を閉じました。

## 5月の課題

さて、アルカナ「魔術師」では、皆さんが考えるコミュニケーションについて語っていただく時間がありませんでしたので、ここで皆で課題に取り組みしましょう。次回のセミナーまでに、自分自身が「魔術師」による指針、問題を解くカギを実践して、現実的にどのような効能が得られたかをレポートを作成して下さい。たとえば、主催者は、4/16のセミナーで取り上げた家族関係の問題について、ある「計画」を立て、事細かにシミュレーションし、家族関係に変化を起こそうとしています。結果を、5/17のセミナーでお伝えしたいと思います。

参考までに、月刊ステラ・マガジンに連載中のアルカナ「魔術師」の項を同封します。

皆様が展開したタロットの出目について、セミナーで取り上げたいものがあれば、一週間前までを目処にお知らせ下さい。こちらで配布できるような資料として作成させていただきます。

では、5月17日月曜日のセミナーも場所、開始時間は変わりません。お忙しい中恐縮ですが、出欠席のご連絡はお早めに、よろしくお願い申し上げます。